

2022年12月

開館25周年記念展

京都 細見美術館の名品

— 琳派、若冲、ときめきの日本美術 —

■会期 : 2023年3月22日(水)→4月10日(月)

■会場 : 大阪高島屋 7階グランドホール

[巡回会場] 2023年4月26日(水)→5月15日(月) 日本橋高島屋 S.C. 本館 8階ホール

■入場時間: 午前10時～午後6時30分(午後7時閉場)※最終日は午後4時30分まで(午後5時閉場)

■入場料 : 一般 1,200円、大学・高校生 1,000円、中学生以下無料 ※税込価格

■主催 : MBS テレビ

■特別協力: 公益財団法人 細見美術財団

日本美術のコレクションで国内外から高い評価を受けている京都・細見美術館。その開館25周年を記念して、選りすぐりの作品 約100件を一堂に紹介する展覧会を開催いたします。

昭和の実業家 細見良氏(初代古香庵)に始まる細見家三代が、60年余りを費やして蒐集した名品の数々。代々の細見家の驚くべき先見性と真の鑑識眼には、日本の美への強い憧れと情熱が貫かれています。

本展覧会は、日本美術史を総覧する幅広い時代とジャンルのなかから人気の高い江戸絵画をはじめ、各時代や分野を象徴する優品を集めた贅沢な内容となっています。仏画や荘厳具にみる祈りの美、古香庵好みの茶の湯の美術、華麗な蒔絵や七宝と風俗画、日本美の象徴・琳派、そして奇想の画家・伊藤若冲、の5章で珠玉のコレクションを紹介し、細見美術館ならではの美の世界を堪能していただきます。一貫した美意識によって蒐集され、コレクターを愉しませた作品の数々が、皆さまを心地よい満ち足りた“ときめき”へと導くでしょう。



鈴木其一 水辺家鴨図屏風 江戸後期

※本リリースに掲載している画像は、本リリースに関する記事掲載目的での利用に限らせて頂いており、画像改変(トリミング、部分使用、文字のせ含む)や、営利目的での使用等、(株)高島屋に許諾されていない態様での画像使用は、かたく禁じます。

展覧会内容

※ いずれも細見美術館蔵 ○は重要美術品

1. 祈りのかたち

「神や仏に捧げられた造形にこそ真の尊さがある」とする初代古香庵の信念が細見コレクションの原点です。切なる願いが込められた仏画、美麗を尽くした荘厳具などにみる日本美術の優美さ、繊細な感性、力強さに触れてください。



誕生釈迦仏立像 飛鳥時代



(上から) ○金銅三昧耶五鈷鈴 鎌倉時代

○金銅五鈷杵 平安後期

○金銅金剛盤 室町時代

2. 数寄の心

茶の湯を通じて日本美術の普及を願った初代古香庵は、自らの美意識に従い蒐集した美術品を自在に取り合わせ、茶席で用いました。特に室町時代を主とする茶の湯釜、根来は研究にも熱を入れ、他に類をみないコレクションとなりました。



志野茶碗 銘「弁慶」 桃山時代



○芦屋十一面観音香炉釜 天文3年(1534)銘



根来亀甲文瓶子 室町時代

3.華やぎのとき

日本美術の特徴といわれる「かざりの美」。近世に至ると身近な空間を彩る調度品や人々の衣裳に美しい意匠や精巧な技術が凝らされ、豊かな「かざり」が展開しました。ここでは蒔絵作品、貴重な七宝コレクションのほか、北斎の肉筆浮世絵を含む風俗画もお楽しみいただけます。



七宝夕顔文釘隠 桃山時代



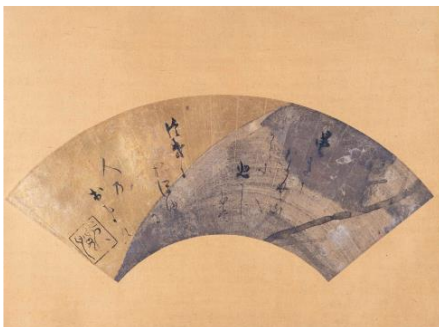
藤蒔絵堤重 江戸後期



葛飾北斎 五美人図 江戸後期

4.琳派への憧れ

江戸初期の京都で誕生した美の潮流、琳派。本阿弥光悦(1558～1637)、俵屋宗達(生没年不詳)から近代の神坂雪佳(1866～1942)まで、20人を超える作家が含まれる二代古香庵によるコレクションから、代表的な作品を選びすぐり、ご紹介します。



本阿弥光悦 書/ 俵屋宗達 下絵
月梅下絵和歌書扇面 江戸前期



酒井抱一 桜に小禽図 江戸後期

5.若沖のちから

京都・錦小路の青物問屋に生まれた伊藤若沖(1716～1800)。狩野派や中国古画などを独学で修めた後、自らの表現を追求し、独創的な絵画を生み出しました。初期の著色画から晩年の水墨画まで、充実のコレクションを通じて若沖の表現力を体感いただけます。



雪中雄鶏図

いずれも 伊藤若沖 江戸中期



糸瓜群虫図



仔犬に箒図

展覧会ホームページ

https://www.takashimaya.co.jp/store/special/hosomi25_tokimeki/index.html



※2023年1月31日火曜日午後5時以降にご覧いただけます。